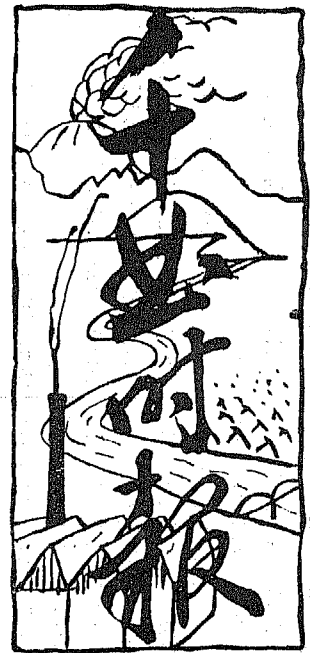


毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



和清山香 會社 所行發  
和會 所刷印

### 我國體に就て

阿形輝司

願れば安政六年幕府の開港以來、我國民は西洋の物質文明の偉大なるに驚き且つ憧がれ、漸次舶來禮讚となり、西洋の文化思想の無批判的無條件模倣となり、濫信濫受、遂に西洋感染の糜爛状態に達し、政治外交教育思想經濟等の全面に亘りて、今日の行詰りを來すに至つた。幸にして外交方面に於ては、滿洲事變を契機として、從來の追従的外交を清算して自主的外交に轉向し、滿洲國の承認となり、國際聯盟の脱退となりロンドン條約及ワシントン條約の廢棄通告となり、北滿鐵道の買収となり、吾人をして實に万斗の留飲を下すの感を抱かしめた。然し、早晩開かるべき軍縮會議を控えて、白人優越感を懷ける西洋諸國の、我國の發展進出を阻止せむとする執拗なる方策は、今後も一層辛辣に講ぜらるゝだるう。米露英佛支等が、何か日本に事あれかしと、四方八方から虎視眈々と狙つて居る有様、實に少しの油断も許されないう状態である。吾等は飽く迄焦土の覺悟を定め、舉國一致彼等をして毫も不逞の念を起すの餘地ならしむるのが刻下の最大急務である。國家百年の大計の爲、此處五六年間は、國民は粥をすゝつても國防の充實を計るの決心が必要である。翻つて國內の事情を見れば、萬事行詰りの儘である。是れが改善建直しには非

常なる決心と努力を必要とする。今日の儘では農村の更生も、教育の革新も、政争の根絶も到底覺束ないのである。實に我國は、今や内外の非常時に直面し、興廢の岐路に立つて居る。此の國難を克服し、國運の隆昌を圖るべき道は唯一つある。夫は我國國民の總てが我國體と日本精神とを闡明して確乎たる信念を固め、此の信念に依つて進路を定め、之に依つて萬事を検討し取捨する事である。抑々國體とは國家の主權即ち國家の權力中最高の權力にして、總ての權力の源泉たる權力である。主權の所在、換言すれば統治權の總攬者が何人であるかの問題にして、統治權の總攬者が人民なるときは之を民主國と謂ひ、君主であるときは之を君主國と謂ふのである。我國は勿論君主國體であつて、帝國憲法第一條に「大日本帝國は萬世一系の天皇を統治す」と謂ひ、第四條に「天皇は國の元首にして統治權を總攬し、此の憲法の條規に依りて之を行ふ」とあるは、何れも我國が君主國體たる事を明示せられたものであつて、廢國以來三千年の歴史の傳統を成文とせられたものである。古事記其他の傳ふる所に依れば、太古渾沌天地未分の時、天御中主神、高御產靈神、神產靈神が造化の三神として此國に御成まし、爾後天神七代を経て、伊弉諾尊、伊弉冉尊が國産みの神として國土を經營せられ、次に日の神と崇めまつる天照大御神は其の統治を委任せられ、高天原を都として六合に君臨せらる。是が日本國の始である。

天照大御神は皇孫瓊瓊杵尊の御降臨に際し、御神勅と三種の神器を給はる。其の御神勅の如く、葦原の千五百秋の瑞穂國なる我大日本帝國は、爾來神世二代を経て神武天皇より、今上天皇に至る迄二千五百九十五年、人皇百二十四代に及ぶ一系の皇統連續として播きなく今日に傳り、更に今後天地と共に悠久無限に彌榮らる。天皇を戴き、世々神ながらなる道に依りて國民を愛撫し給ふ、天皇の御統治の下に我々國民は又先祖代々神ながらなる道に依り、天皇に忠勤を盡し、一致協力して獻身的に奉仕翼賛し、世々の天皇は國民を子と思召し大寶と思召して、民の富は朕の富なりと悦ばれ、國民は、兩陛下を父母と敬ひ、皇室の御繁榮を我事如く悦び祝ひ、天皇を元首と仰ぎ、國民は其の手足となり五體となつて、義は君臣にして情は父子、君臣一如の、敬虔の裡にも懐しき道義の國日本を組織するは、實に萬拜無比の我國體である。次に憲法第四條に「天皇は神聖にして侵すべからず」とあるが、是れ亦他の君主國體と異る我國體を昭示せられたる重大なる規定である。我國體と云ふは、あの短縮に、あとは子孫後裔の意である。我

山本三六郎著  
化學純絹絲の工業的完成  
蠶絲科學研究會編  
伊太利蠶絲絹業の現況  
伊太利蠶絲絹業の衰退原因と其の改良  
菅原勇治著  
蠶絲業法規要論  
改正  
市田上縣野長  
會究研學科絲蠶 所行發  
〔振替長野6413番〕

¥2.30 ¥1.50 ¥0.30

現代乾繭機界ノ王座  
大和式自動輸送乾繭機

【各種型錄贈呈】

製作發賣元  
株式會社  
大和三光商會

營業課目  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動人絹乾燥機  
特許帶川三光式乾燥機  
特許やまざほ式ホーロー乾燥機  
特許サンケー式濾過淨水裝置  
特許サンケー式廢湯吸熱器  
特許サンケー式高壓ポンプ  
特許サンケー式トランプ

東京京橋區京橋三丁目二番地  
電話京橋(56)五三二〇番

々大和民族は親から親と段々先祖に遵れば遂に日の神即ち天照大神に至る。されば大和民族は何れも天祖の子孫にして、皇室は其の總本家に渡らせらるゝものなりとの信仰に出でたるものである。而して天照大神は「葦原の千五百秋の瑞穂國は、吾が子孫の君たるべき地なり、爾皇孫就いて治らせ」と抑せられ、皇位は總本家の御血統の方々が代々繼承せらるべく、其の他は臣民として齊きまつべき事を託げられ、此の至上命令に依りて嚴然と君臣の區別を定められ、國家組織の中心を決定せられたのである。即ち天子様は「すめらみこと」にして、我國は「すめらみくに」である。爾來御代々の天子様は天祖の大御心を體し、惟神の大道に由つて我國を治められ、御神格を以て國民に臨まれたものであつて、現在の天子様は人間として御現はれになつた神様、即ち現人神であらせらる。換言すれば天照大神の御靈が今日も尙我日本を治めらるゝものである。従て天皇は神聖不可侵である。即ち日本は神國である。一君萬民の國である事を示されたものであり、神國日本の秩序を定められたるものである。是を西洋流に解釋して、天皇の法律上無責任の規定等と簡單に之を取扱ふは未だ我國體に對する透徹した認識を有せざるものと云はなければならぬ。要之、我國體は人力を以て如何ともし難き萬世一系の秩序の下に、惟神の道に依り、君臣一體と爲つて永遠に榮え、惹いて世界人類の平和統一即ち八紘一宇を理想とするものであつて、實に永遠的道德的秩序であり、崇高なる世界的理想であると謂はなければならぬ。

上田便り

小海線全通十月八日 信越線小諸驛と中央線小淵驛を繋ぐ小海線、清里、信濃川上間十四キロは十月八日開業する旨五月二日附鐵道省から發表されたが之れで小海線は全通する譯である。然して機關庫は中込に保線區は小諸に設置される事に内定したと云ふ。

國寶木像修理成り開眼供養 別所温泉安樂寺の國寶木像は千二百餘圓を投じ奈良美術院に於て修理中なりしがこの程完成したので五月五日盛大なる開眼供養祭が催された。當日は午前九時大般若祈禱會、同十一時出班焼香、開眼が行はれ参詣者で賑つた。この木像は今から六百年前鎌倉時代の作、安樂寺の開祖樵庵禪師を慕つて來朝した弟子の宋人幻牛が嘉曆四年に師の姿と自分の姿を彫つたもので胎中に八旬陀羅尼が記してある貴重なもので大正二年國寶の指定された。

上田市の兒童愛護週間の催し 五月四日より十日迄の第四回全國兒童愛護週間は上田市では六日午前八時三十分より新緑の市營運動場に於て幼兒大運動會を開催し梅花、常田兩幼稚園及甘露園、慈袍園の幼兒二百餘名と満三歳以上學齡迄の一般幼兒一千餘名が参加し遊戯、徒歩競走、旗取、綱引等子供の世界を現出し附添の親や家族も多數押寄せ非常な賑ひを呈した。尙之の週間中市醫師會其他關係團體が市内數箇所兒童の無料健康相談所を開設し各種保健上の相談指導に當つた。

つげは開始 千曲川依田川などの名物『つげば』がいよ／＼五月初旬から始まつた。ピチ／＼と跳ねる川魚を漁つて其の場で料理して味ふは又格別と云ふものである。

上田商工會議所落成 市内原町二丁目西側に建築中の縣下一を誇る上田商工會議所のモダン新廳舎は漸く完成、五月

十日長い市役所内の借家から移轉したが十三日午前十時より市廳舎樓上に於て各方面の名士、市内有力者三百餘名參列の上盛大なる落成式を舉行、終つて市公會堂で大祝賀會を開催した。此日商工業の殿堂の落成を祝福する爲め晝夜烟花を打揚げ十四十五の兩日は廳舎を開放し一般に縦覽せしめ當日より三日間廳舎廣場に舞臺を設け手踊、芝居、レビニュー等の餘興があつた。この兩日地元原町各商店では廳舎二階大廣間に商品を陳列大廉賣を行ひ大賑ひを呈した。



全國産業組合の上田視察 第廿一回全國産業組合大會は五月十八日十九日長野市に於て開催されたが二十日は出席者が南信、中信、東信の三班に分れ縣内視察を行つた。其の内東信班約百五十名は二十日午前十時四十分上田驛着列車にて來田、信用組合、共同質庫を視察上田公園に至り城址、徴古館を參觀、公會堂にて晝食休憩、電車で中鹽田村組合を視察、別所温泉に宿泊、廿一日は午前九時自動車にて神科、和兩村産業組合視察正午小諸懷古園で晝食、輕井澤に至り躑躅原、鬼押出を見て午後五時頃輕井澤驛にて解散した。

東京朝日の定期航空開始 冬季間中止してゐた東京朝日新聞社東京新潟間定期航空は第七日を迎へて五月十六日より開始され上田飛行場へも不定期に寄航する事となり同日午前十一時十五分上田飛行場着小憩の後羽田に向つた。

北信中等學校庭球大會 五月十九日午前九時より市營球場で北信中等學校庭球大會が開催され上田中學、岩村田中學、野澤中學、小諸商業、丸子農商の五校が参加し上田中學優勝した。

津田鐘紡社長の工場地訪問 津田鐘紡社長は五月二十日午前十時上諏訪より丸子町を訪問、地均工事完了視察及工場建設打合せをなし町役場に於て工場建設盡力者卅一名に對し感謝状と記念品を贈り百餘名を招待して懇親會を開き終つて上田市を訪問工場地均工事を視察し商工會議所に於ける市内有志招待座談會に臨み午後六時十九分上田發で長野に向つた。

上田小學校北校増築完成 昨年十二月來鋭意工事中であつた上田小學校北校増築工事は此程完成五月廿七日落成式を行つた。新築校舎は間口廿五間半、奥行五間半の木造スレート葺二階建、建坪百五十九坪七合五勺、延坪三百三十二坪、九教室に分れ工費は二百九百六十圓である。之れで當分兒童收容に差支ない譯である。

菅平へバス運轉 上田温泉會社では六月一日より九月末迄菅平口菅平間、澁澤鳥居間にバスの定期運轉を行ふ事になつたが料金は菅平廿五錢、鳥居峠十錢で一日六往復、午前七時廿六分九時十分、十一時五分、午後一時四十二分、三時廿九分、四時廿六分(不定期)である。又丁度鈴蘭、ワラビ狩のシーズンとなつたので六月一杯上田、菅平口間往復七十八錢に割引を行ふ。

大瀧洲展覽會 信濃滿鮮社主催、拓務省、長野縣信濃教育會、松本聯隊區司令部後援の大瀧洲展覽會は六月三日より五

日迄上田市公會堂で開催されたが同展覽會には滿鐵、拓務省、關東軍、遊就館、東京朝日新聞社等より日支事變に使用の武器、出征軍人の遺品等及滿洲の政治、風習、産業、教育の資料、寫眞等各方面に亘り二千餘點が出品され何れも地方に於ては容易に見られぬ貴重品のみにあつた。

織物生産高激増 上田稅務署で九年度中検査を行つた織物價格は、絹織十三萬四千五百三十一圓、綿織交織三十三圓、毛織八百八十四圓、縮毛交織四圓其他二百四十三圓で合計十三萬五千六百九十五圓に達し前年に比し四萬四千三百十六圓の増加を見せ生絹、縮緬が著しい増加振りで之は上州方面の賣行がよかつた事と蘭價安の爲め自家で製絲した上織る者が増加したのが原因である。

新名所指定 本縣兵事課では新に縣下の史蹟、名所舊跡を保存する事となり夫々關係町村長宛通知を發したが其の重要なものは次の如し。

屠場の移轉 新築された許りの上田市屠場は鐘紡工場敷地となつた爲め諏訪部地籍に移轉する事となり工費五千六百圓で五月二十三日地鎮祭を行つたが業者に支障を來さぬ様スピード的に七月二十日迄に完成の豫定である。

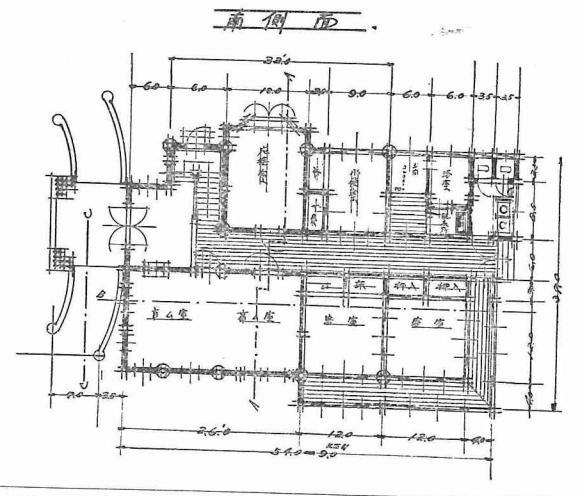
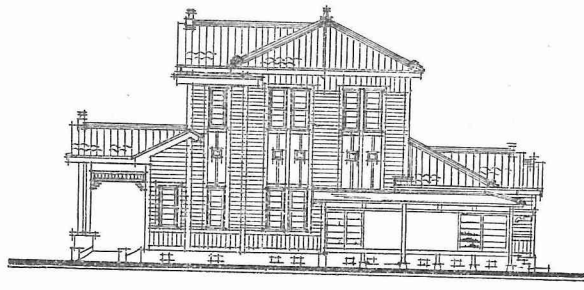




廿五周年記念事業

千曲會館の設計に就いて

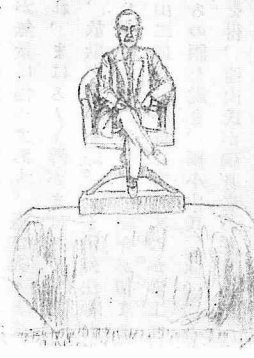
千曲會館(未だ館名は定つて居ない)建設の豫算は、總計五千圓である。吾々同種學校の此種建築豫算に比べて相去る甚だ遠きを思はせる。實際直接設計の衝にあつて見て多々益々其感を深くせざるを得ない。こんなミミツチイスケールに盛り澤山な理想や希望を容れやうとする事は到底割り切れない相談である。かなり奮發して出来るだけ切り縮めて設計はして見たが矢張り結局千五百圓の足を出して了つた。即ち最少限度六千五百圓はどうしても要する。以上の縮少は設計良心の許さない範圍であると云ふ所である。此の不足額は祝賀會事業費から捻出したいと思つて居る。



一、二階 三三三×三二尺の内三三三×二四尺(約四十四疊敷)の會議室、と、二二尺×八尺の控室を取る。會議室は職員會議、學生同級會、千曲會代議員會等に使用の豫定。  
二、一階 事務室、四間二尺×二間半、取り外し自在の中仕切を設け二室となし得。客室、八疊二室、東南二方に四尺の廊下を廻らし奥室には床、遮棚を前室には押入れを設く。用材は室内は主として檜、廊下は川上ツガ、贅澤に流れず清楚たる中流の客室を標準とす。應接室、二間×二間半、北向に出窓を設く。壁紙を用ひたる洋間式。廊下、中央一間巾に東西に通ず。其他、小使室(兼宿直室)炊事場(土間と板張り各一坪宛)浴室、脱衣所付洗面所、便所。  
次に建設位置は圖書庫とテニスコートの間にある南寄りの桑園の中で學校の中央道路からテニスコートの東側に添ふて丁度會館の玄関に突きあたる様に道路を造り又それを直線にして裏道に抜ける様に裏門を造る豫定である。又會館の前後左右に適當に樹木をあしらひ客室の南側には塀を設けて中に庭を作りたいたいと思つて居る。(倉澤)

壽像製作著しく進捗す

昨年の今頃石井鶴三先生が來られ約一月を費し校長室に於て校長先生を石膏に移された事は報告済みだ。それが石膏になつて秋の院展に出品されこれを見た同窓に感激を與へた事も御承知の如くである。それからの經過は斯うだ。石井先生は愈々原型製作に取りかゝられた。石膏がその中心になるべき骨組を少なからず苦心されたらしい。頭から腰掛の中心を通り太い鐵棒を貫きそれに木材を針金で確かりと鐵棒から手足腰掛指先迄すつかり骨組を作られた。なんしろこの骨組を完成するに三月半を要したと云ふ事だから驚く外はない。此處「粘土」を附けられ始めは校長先生の裸體像として完成されやがて洋服を着せられるのである。



七月下旬迄には石膏になりそれからブロンズになつて九月下旬には完成される筈である。銅像の位置に就ては最近校長室の南方御手植のヒマラヤシダの東方地區に西南面に据へ附けらるゝ様石井先生に於て撰定されたが其の後第二候補地として新講堂の西方桑畑内に東南面を向うたとの意見も生じたが種々研究の末文部省の事務的意見も参考とし石井先生の最新撰定された位置に決定し目下庭園風に滋野村から運び來つた自然石七個を配し雅致あるものにして折角努力を配した。次に昨秋代議員會の席上東京支會代表高島秀男君より壽像建設の認可を得た。恐らく得て居るまいから念のためとの御注意を受けたので、早速警察署へ出頭取調べに及んだ所形像取調規則(内務省令第十八號明治三十三年五月十九日發令)の第二條に依り肖像建設許可申請書の提出を必要とする事が判つた。それには八項目の説明を要する。其内面倒なものは學校敷地利用を文部省に出し認可を得てなければならぬので目下手續中だ。もう一つは形像の設計圖面と云ふ項である。そこで臺石の上椅子共校長先生に乗つて戴いた所を寫眞に撮つて寫眞添付し五月廿七日來校の石井先生にお話し早速見取り圖を書いて戴いたのが此の寫眞だ。大體こんな調子で着々進行しつゝある事を御報告に申上げて御諒承を得たい。(林)

祝賀會期日線上 及日程一部變更

廿五周年記念祝賀式は十月廿七日より十一月三日迄の間に開催する豫定であつたが市當局より其頃は當地近郊の農繁期で人が集らない、又北信十市商工會議所會議が上田市で開催されるので同會議出席者が祝賀式に參觀させ度いからとて期日線上の依頼があつた。尤もなる申込なりとし五月十一日校長室に於て役員會開催協議の結果左の如く變更した。同時に日程の一部變更もつた。  
期日  
一、十月十七日 陸上運動會  
二、十月廿二日 廿七日の六日間に亘る

第十三回贈出金申込者(五月卅一日)

Table listing names and amounts of donors for the 13th round of fund-raising. Includes names like 唐木田藤五郎, 原田宣治, etc., and amounts in yen and sen.

記念祝賀式を舉行する、但し兩三日の移動はあるかも知れない。

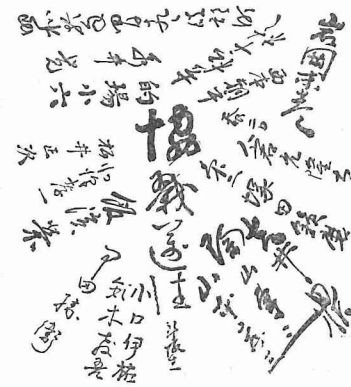
廿五周年記念祝賀會第二日に開催さるべき記念講演會は午前中に織維工業學會、午後には蠶絲學會を開催する事に決定した。其人員及講師は目下折衝中である。

記念講演會内要

Table listing the names of speakers and their topics for the commemorative lecture. Includes names like 兵衛(蠶), 塚村(蠶), etc., and topics like 蠶の移動, 蠶の歴史, etc.

支會通信

丹波會總會
針塚校長先生には大日本蠶絲大會出席の爲め御來機を機とし四月十九日綾部町に於て丹波會總會を開催す。出席者は十七名に達し盛會であつた。左は當日出席者の寄せ書を示す。



東京だより

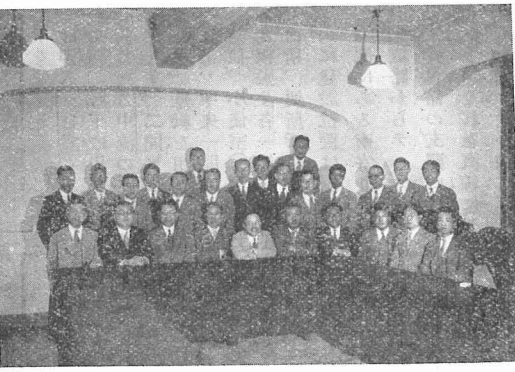
養蠶科の學生のみに許された紅葉山御養蠶所拜觀は毎年春蠶掃立を控へ忙しむに差許されることになつて居る。今年も五月二日急遽上京、金子教授平尾助手引率の下に一行二十六名が見えた。左記日程にて學生々活最後の楽しい旅行を無事終り歸田された。

五月二日 農林省農事試験場並東京高等蠶絲學校參觀
三日 紅葉山御養蠶所拜觀、蠶絲會館、中央氣象臺參觀
蠶絲會館では野崎、永井、小北、牧(確井)兄弟は生憎出張不在、諸氏出席して畫食を共にした。野崎さんよりは蠶絲業界の現況特に蠶絲業法により結成された各種團體の活動情況等に關し話された。學生諸君より自己紹介があり特に學生團體武治君より新作上田小唄の紹介があつた。

内蠶絲會館に於て東京千曲會春季總會を開催した。集ふ者支會長外二十六名左記議案に就き協議した。

一、副支會長選任の件
一、其他
先づ支會長より開會の挨拶があり内藤幹事より昨九年度事務報告並會計報告があり議事に移り副支會長は農林省蠶絲課内上野榮仁氏を煩すことにした。

倉澤教授、中澤忠氏(糸一)柴村壽命氏(蠶五)小山二郎氏(蠶六)小山俊吾氏(糸一)小山雅夫氏(糸一)仲内靜氏(蠶一)中島角太郎氏(蠶一四)友野正路氏(蠶一六)星野豊氏(糸一六)遠山正人氏(蠶二〇)鷹野貞雄氏(蠶二〇)西澤良一氏(蠶二一)瀧澤正一氏(糸二一)



佐久千曲會員懇親會の記

佐久高原にも、若葉薫る初夏が訪れ、佐久戀しの時節が到来した。この機に南北兩佐久郡の千曲會員が集まつて、お互に舊知を温め親睦を圖らうではないかとの話の一部に持上り、去る五月十九日の日曜午後二時より、岩村町佐久ホテルで懇親の宴を催した。會する者十四名、豫期以上の盛會であつた。意氣軒昂たる若

人から八人の子供をもつ爺さん級まで色とりどりだが、『煙ふいて千歳百歳ひるまぬ意氣がゆかし浅間山(追分節)』の元氣のあることには變りがない。特に母校よりは倉澤教授が、こんな地方的な小會にも、御多蒙中憲々御趣を願ひ、この會に一段と光彩をお加へ下さつたことは一同感激の外がなかつた。謹んで感謝致す次第である。因に參會者の氏名は左の通りである。

會場も斯うした會には恰好の落つきのあるしんみりした所だ。先づ柴村先輩の挨拶に始まり倉澤教授の母校の近況其の他につき詳細に御指示を願ひ宴に移る。肴はないが、酒だけは天下の吟醸佐久の酒が無量に備へてある。盃が次々と交はされ、まはる／＼酔がまはる。快談、爆笑、放歌……の錯綜。全く治外法権だ。ユーモアたっぷりの自己紹介が初まる。小山二郎氏が小蘇三升が来ぬか參上に通ずるの謂を説き、兩小山氏(後、雅)の助勢を得、遠山氏が獨身者の悲哀を訴へ、新支所長仲内氏が満洲くんだりの一節、中澤氏が商賣の妙術、續いて倉澤美秀先生が故事來歴の談、峰村氏が先生稼業の秘話、其他面々の漫談家張りの紹介に腹を抱へる。この時一同庭園に出て、パチリと醉眼朦朧の處を撮り、各自のサインをする。更に宴が續く。得意の十八番も連發し『上田』といふ雰圍氣に陶酔する時、偶々近く後傑をうたはれ惜しくも花と散つた北佐久郡鹽名田出身の小林貫一君並に佐久物故者各位の靈を慰め追悼の意を表さうではないかとの議起り一決、直ちに席上に『佐久千曲會員物故者靈位』と、倉澤教授の筆になる靈牌を設け、一人一人嚴かに禮拜し香を焼く。喧噪の席

一轉して、寂として靜なく、莊嚴の氣みなぎる。目をしばたゞき、鼻を吸るのみ。何んたる光景ぞ。英靈よ、我々の微衷を酌み、安らかに瞑せよ、と謹んで祈る。一同この意義ある又かつて例なきしんみりとした會合であつたことをしめじみと考へさせられた。母校並に會員の萬歳を三唱して解散した時は、七時を過ぎ、佐久高原の初夏の夕の寒さがアルツと身にこたへる頃であつた。(中島記)



計報

御逝去通知

- 原 亮敏氏(蠶二) 昭和十年四月二十五日逝去
御遺族 松本市元町信濃屋小間物店 嗣子 原 秋男氏
沼田周造氏(蠶十三) 昭和十年五月十八日逝去
御遺族 川崎市渡田九三七番地 嗣子 沼田 宏氏
市川たつ子氏(蠶二) 昭和十年五月二十日逝去
御遺族 植科郡植生村字小島 職父 市川實次郎氏

弔慰金募集

本會々員 故 原 亮敏氏(蠶二)
右記諸氏に對し弔慰金を募集致します。然して右弔慰金は八月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈したいと思ひますから夫れに間に合ふ様振替口座東京四三三四一四番へ夫々同氏弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。
八月十五日
上田蠶絲專門學校千曲會

故仙場秀次郎氏の禮狀

御遺族より
貴會益々御隆昌奉慶候。陳者會弟秀次郎死亡の際には御懇切なる御弔慰を辱し且つ學窓關係御知照に御通知被下候由御厚情難有銘肝に候。然る處今奉存候。亡弟も定めし地下に感謝の至りに禮申し居る如斯御座候。右以書中不取敢御禮申上度如斯御座候。敬 具
昭和十年五月廿九日 仙場 東太郎

故井上泰利氏の禮狀

御遺族より
拜復 各位益々御清祥之段奉賀上候。陳者次男泰利死亡に付御御重なる御厚禮を賜はり御芳志之段洵に難有御厚禮申上候。御生前は一方ならざる各位の御指導に預り感謝に不堪謹みて御禮申上候。拜具
千曲會各位
昭和十年五月廿九日 井上 五郎

故佐藤彰二氏の禮狀

御遺族より
拜復 貴會益々御隆昌の段奉賀の爲め奉慶候。却説先般嗣子彰二死亡に對しは深厚なる御同情を賜はり今回は對し難有御厚禮を辱し難有拜受早速靈前に手向仕候眞に御芳志の程感銘の至りに不手御厚禮申上候。先は乍略儀書中に以て御禮の御挨拶迄申述度如斯御座候。敬具
昭和十年五月三十日 佐藤 善右衛門

故中曾根誠一氏の禮狀

御遺族より
拜啓 初夏の候千曲會員各位には益々御健勝御初慶の趣奉慶候。陳者長男誠一君事上田蠶絲專門學校在學中より卒業後昭榮製絲株式會社在勤中は格別なる御指導も數々の御懇情を蒙りし洵に難有衷心感謝致し居り候。然る處今回は又々多數の會員各位より多額の御香料を御惠送被成下候。御厚意を報告致候。本人の靈も何れ各位の御厚意を居る事と信じ申候。何れ誠意に感泣致し居る事と信じ申候。何れ近頃誠一君の御遺族に御慰問し居り候。不取敢御禮申上度如斯御座候。敬具
昭和十年五月三十日 中曾根 都太郎

故沼田周造氏の禮狀

御遺族より
謹啓 陳者周造儀死亡の際には御懇篤なる弔慰を辱し御芳情の段誠に難有奉深謝候甚だ乍失禮書中を以て御禮申上度如斯御座候。敬 具
川崎市渡田九三七番地
昭和十年六月 父 沼田 興三吉
母 田 宏鶴富
妻 長男

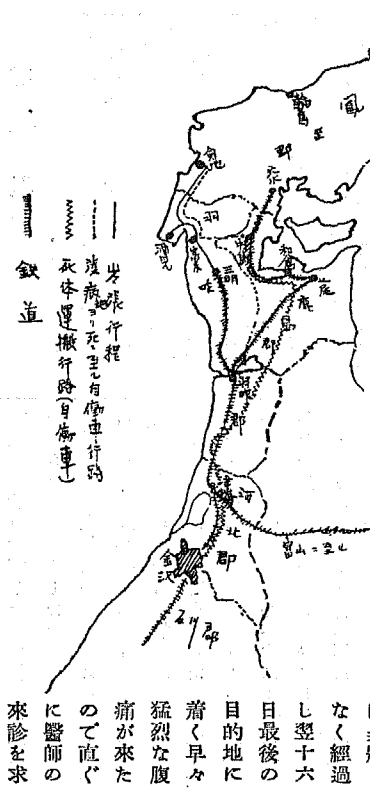
弔慰金報告

- 故小林貫一氏弔慰金第五回
金貳圓也 原田 兵衛
右合計金參圓也
故馬場政友氏弔慰金追加
金壹圓也 石坂虎治郎
右合計金貳圓也
故佐藤彰二氏弔慰金追加
金貳圓也 門平潤一郎
右合計金貳圓也
故井上泰利氏弔慰金追加
金貳圓也 小口 伊祐
右合計金參圓也
故馬場豊氏弔慰金第四回
金貳圓也 笠原 義人
右合計金五圓也
故梅津庫太郎氏弔慰金第三回
全參圓也 的場 小六

沼田周造君責任を果して 遂に出張中職に弊る

石原 石司

五月の北陸は割に良い管の天気も十二三日頃からどんよりとした曇り勝りの天気が続き時としては一日中休みなしの雨足で憂鬱の気分になり勝ちであった。何時も離職と事務に追はれて居る吾々も年中行事の一つとして春蠶の視察やら共同飼育調査の爲手分けして出張する事になつたのである。夫々區域を分擔して行く事になり、



沼田君は奥能登方面へ而も調査の都合もあり一番交通不便の剣地村へ行かねばならないことになつた。其頃は幸ひ元氣も回復に向つて居たが五月中旬とは云へるに羽織が欲しい位の陽氣なので不順な氣候を恨んで居た。君は出張四、五日前から幾分氣分が勝れないと云ふて醫師の診断を乞ふやらレントゲンを掛けるやらして用心して居たのだが別に大した事もなからしいと云ふ醫師の診断であつた爲出かけることになつたのだがそれでも用心に四日分の薬を用意して行つたのとてあつた。五月十五日の出発の日には別に異状もなく経過し翌十六日最後の目的地に着く早々猛烈な腹痛が来たので直ぐに醫師の來診を求め

め沈痛劑の注射などしたたが藥効も殆んど現れず痛みは益々加はる許り如何んとも致し方なく終夜宿屋の人達の親切な介抱を受け夜の明けると待つて縣廳へ急報したのであつた。此れ迄に君自身がほんとに氣付けばよかつた。普通と變つて居る状態を氣付けばそれほど迄でなかつたらうにと今更乍ら思ひが出る。君は出張前に『せめて一日ほどゆっくり休んで』と奥さんに述べたさうだ。年に一度は必ず此れに類した腹痛があつたので或は其時と同様に多少簡単に考へて居たのではないか？

君の眞面目な責任感にこうした事の爲に直ぐに引返してしまふと云ふ事を許さなかつたのであらう。こうして君は遂に金澤を去る三十里然も汽車もなく電車もない僅に乗合自動車が一日に二、三回通つて居る海に面し脊に山を負ふた一寒村で發病したので。無論醫者は居ても外科内科其他百般の病氣を見て居る様な醫師止むを得ず近くの富來町から醫師を迎へて診断を受けた。

時既に病勢はどん／＼昂進し相当重病だと云はれたのだが病名は判然と診断がつかなくつたらしい。急は福井縣廳へ報せられ急報に接して縣は同僚西川、北澤兩君を急派した。兩君は取るものも取り敢へず急報現場に馳け付けたのだが、如何せん僻地の土地であるため金澤から五六時間を費し漸く午後の三時頃病友沼田君の許へ馳付けることが出来た。其時は既に苦痛の爲只津々と油汗を流して居る哀れな友の姿を見ればより外はなかつたとの事。醫師兩名に依り腸重疊といふ容易でな

點能登中島で看護に向つた同僚二人と醫師に護られ眞土へ旅立つてしまつた。時は五月十八日午前七時半。場所は道路を馳る自動車の中能登中島の地點に差しかけた時。其處で君は到頭死したのだ。沼田君！ 嗚呼！ 沼田君！ 嗚呼！ 沼田君！ 嗚呼！ 沼田君！ 嗚呼！

君と一日遅れて方角を異にし同じ奥能登に出張した僕は君の訃報に接したのは十八日の午後五時飯田町の宿屋の玄關で聞かされ耳を疑ひ宿の主婦の言葉を疑ひどうしても信じられなかつた。縣でも多忙の内あらゆる手段を講じて通してくれなれど、交通便利な土地ならば三十里四十里は直ぐに引返す事も出来るが汽車はなく終夜七時の七尾線に間に合ふ自動車もなく岡々として一夜を明かし翌朝五時の汽船に乗るべく馳け付ければ運悪く出帆不能との事。止むを得ず自動車、汽船汽車と七時間強の道中君が死の前夜を想像し生前の事を思ひ胸中走馬燈の如く、どれほど此の時間が長く思はれたであらう。漸く君が出棺午後二時に間に合ひ君の靈前に合掌はしたが、丈夫で別れた君の姿のみ思ひ出され、アノ謹直な君が今にも聲をかけてくれるのではないかとアノ長身の君が眼の前に現れてくるのではないかと、故人の君をどうしても考へる事が出来ない。だが涙に濡れた奥様や御遺族の御顔を見て矢張りさうであつたかと思はせられ涙を新しし現實を承認するより致し方なかつた。

君が生前は誰もが知る通り實に謹直であつた。精勵啓勸の技術者であり且又圓熟した事務家であつた。君は日曜といひ祭日といひ縣廳の机を前にして居る時は必ず書類をひろげて居た。『君モーニングを着て居る時位ゆつくりとしるよ』誰かがこんな事を云ふた事もあつた。君は又他人に迷惑を掛ける事は一切なかつた。僅かな金ではあるが今回遭難の出張前無理に置いて行つた。北陸千曲會の會計を預つて居た君は出張の直前此れは大切な物だから御前に預けて置くと云ふて通帳其他の書類を奥様に渡して行つたさうだ。出張前君が幾分不快であつた時『俺は兎も角萬一の事があれば子供等が可愛想だから嫌な薬も呑むんだ』と云ふて居た。『若し俺が死んだら後はどうして行く』と奥様に話をして居たとか。蟲が知らせると云ふ事が事實とすれば正に之等の事柄は其の一事だと思ふ。責任觀念の強い君としては當然であつたかも知れない。然し言行が結果から見てもあまりに生々しく感じられてならない。今回の慘事も君の謹直と強い責任觀念が無理を押したものと考へられ一入君の性格に打たれると同時に『命あつての物種』昔からの言葉ではあるがひし／＼と胸に感じられてくる。悲しみ深い奥様や玩是な子供達を見る時どうして涙なしに居られやう。終始勤勉力行であり恪勤精勵であつた君は遂に職の爲に斃れたのだ。『君らしい死に方だ』涙すべし君が靈よ。皆が君の冥福を祈つて居る。知事始め部長課長、同僚は心から君が今回の死を惜み御遺族に同情の涙を注いで居る。只斯うした場合慰むる途の閉じて居ないのを遺憾に思ひ、特別の同情を以て幾分の事はして戴いた、其丈だけでも我々本當に有難く感謝して居る。天はなぜ君の様な有爲の人材を奪ひ去るのか？職に斃れた君の靈に捧げる爲めせめても残された子供達を慰める途はないのか？噫。御遺族は五月廿五日金澤を引揚げ奥様の里方川崎市渡邊九三七、沼田與吉様方に寄寓される事になつた。

市川様の思出

關にし



櫻散り牡丹くづれて春の女神も天つみ空の宮殿に歸らんとする一日皮肉にも神様は私達級友市川様の魂をしつかり抱いて昇天なされてしまひました。昨年櫻花爛漫と咲き匂ふ四月池田様を失ひ未だ悲涙盡きぬ矢先今亦市川様の悲しき御知らせに接した私達の驚き、嘆きふり落つる涙をかみしめて一時は失神せんばかりでした。市川様は昨年卒業されると同時に篠ノ井の更級社に入社されて一ヶ年社の爲にその手腕を發揮され一歩一歩堅實な道を行んで来られたのでした。だが社の方針が養成を廢止する様に變更されたので入社以來守通して来た職場も止むなく去らねばならぬ様になりました。自宅での静養も東の間、今から思へば幸か不幸か遠く伊勢の國龜山製絲に入社する事になり本年二月二十日、以前にも増して御元氣な御容姿に接する事が出来ました。私達は飛立つばかりの喜しさに満ちあふれました。以後二ヶ月、餘りにも短い生涯を龜山の地に送られたのでした。三月中旬頃から風邪の氣味であつたがそれに屈する事なく押し通して社の爲に活動を續けられたのでした。

な性格の所有者でしたので級中の誰にも敬愛されて居りました。私は市川様とは通學の時よく途中で一緒になり、或時は常田ヶ丘に或る時は公園に又或る時は千曲の清流に共に散歩したものでした。又校庭のしたる様な縁にむせびながら幸運のクローバの四葉を探し求めたのも今はかへすによしなはいかない思出となつてしまひました。これも人の世のまねかれ得ぬ運命か。あゝ五月の末の廿日よ、實に花に百日の色なく人に百年の齡なし。あはれ五月の春廿歳を一期として空しく仇し野の露と消へられた悲しき、今ははやく耳に入るものはたゞ河の音と松風の響のみ。この自然の境に對し洋々たる水に向ひ私の心、私の想はたゞあの優しき市川様を想ふ。茫然とたゞ友の行方を見守りて天仰げば夕空に悲しく輝く明星一つ、森の梢にかゝれるは、今はなき友の化身か。未來永却に歸り来る事のない友の御霊の天使の慈悲深く大らかな腕に抱かれて眠れる御霊の冥福を私達は心から御祈りいたします。

妹を憶ふ

市川 みつこ

新樹に風かほる五月！あゝ思へば恨めしい悲しい月でございます。今より七年前のこの五月一人の妹を失つて後幾歳か経つての頃をどんどんと淋しく送りし事か。忘れ得られぬ身に今又この不幸しかも五月老少不定とは申せたい。天の無情を恨むばかりで御さいます。地上に妹二人を持ちて心優しく暮せし事も東の間で御さいます。去る五月二十日午後三時遂に親愛なる妹たつ子を失ひし果敢なき。過ぎし二日突然會社よりのお便り早速に拜見しました。たつ子儀四月中旬頃より風邪が元にて思はしくなく四日休養中に付き一度來社され御相談ある旨御通知がありまして早速父が参り五日朝父と共に歸宅いたしました。衰弱こそすれにこり微笑んで『唯今かへりました』と云ひし貴女の姿あの元

會員

動靜

(六月六日現在)

Table with columns for member names, addresses, and status. Includes names like 篠原善次, 原山亮敏, 永山圭一, etc., and their respective locations and dates of activity.



會費領收

(五月廿一日)

昭和九年度分及十年度分通常會費納入者

(○印は蠶絲學雜誌代共)

- 九年度分
○陶山 專三(蠶六) ○中村守太(蠶七)
須江辨三郎(蠶七)
十年度分
○野口新太郎(蠶二) 香山 清和(蠶三)
○秋山武一郎(蠶九) ○坂口 正信(蠶六)
○千村 敏三(蠶六) ○小林 繁(蠶八)
○大谷 勇(蠶九) ○柳原 春彦(蠶八)
○富田 治衛(蠶七) 林 清市(蠶九)
○本橋万三郎(蠶七) 望月 太一(蠶七)
○本谷 良雄(蠶七) 林 正平(蠶七)
○大越 信(蠶九) ○柳澤 榮一(蠶七)
○栗野慎一郎(蠶三) ○小林 國造(蠶七)
○松谷鐵之助(蠶三) ○兒玉 徳入(蠶七)
○多勢 龜次(蠶七) 白土孫七郎(蠶七)
○古越 光明(蠶七) 兒玉 信尊(蠶七)
○武藤 寛一(蠶五) 佐谷戸健次郎(蠶一)
○田口富五郎(蠶九) 笠原 正己(蠶七)
○和田 晋(蠶七) 小山 惠治(蠶七)
○佐藤 一(蠶二) 猪坂 直一(蠶六)
○牧野 弘(蠶七) 飯田 四郎(蠶一)
○折茂正太郎(蠶一) 喜多尾猪門(蠶二)
○味知 康三(蠶七) 長谷川恒三(蠶二)
○佐藤 俊三(蠶六) 池田 篤治(蠶六)
○山本 薫(蠶二) 大谷内三衛(蠶七)
○井土兵一(蠶七) 中島角太郎(蠶七)
○西澤 良一(蠶七) 下村忠一郎(蠶七)
○和田 貞政(蠶十) 瀧口 昇(蠶七)
○北村 一郎(蠶二) 瀧口 啓一(蠶七)
○黒江 文雄(蠶二) 小山 庸人(蠶一)
○酒井五十三(蠶三) 飯島 輝雄(蠶八)
○北澤 常雄(蠶七) ○永井 眞吉(蠶六)
○吉田 榮治(蠶六) ○隅倉 美義(蠶七)
○中島 眞(蠶七) ○竹内 善吾(蠶七)
○北島 正生(蠶七) ○荻谷 恒次(蠶六)
○笠原 四郎(蠶六) ○川船 卓爾(蠶十)
○新井宇之助(蠶七) ○萩原 國雄(蠶七)
○中澤 活也(蠶三) ○和田 正夫(蠶六)
○池田忠次郎(蠶七) ○塚田 敦(蠶六)
○今村 良郷(蠶七) ○中島 正喜(蠶七)
○野口 活也(蠶七) ○湯淺 文雄(蠶七)
○林 十郎(蠶七) ○角田 收(蠶七)
○糟谷三樓(蠶六) ○宮城 博(蠶七)
○奥野 憲三(蠶七) ○塚田 卯平(蠶十)
○中村 守太(蠶七) ○大木 定雄(蠶七)
○森本爲之助(蠶七) ○森戸 晋(蠶七)
○小林 庸(蠶三) ○高橋義三郎(蠶四)

- 小林 修(蠶七) 齋藤 孝道
○坂田 正賢(蠶八) ○小山 俊吾(蠶十)
○上林多兵衛(蠶七) ○山崎 壽(蠶七)
○中村 武男(蠶六) ○神戶 敏夫(蠶七)
○小林 良耳(蠶二) ○松野 外史(蠶九)
○平野 秀男(蠶七) ○水城 孝勇(蠶九)
○石原 石司(蠶八) ○二宮九二(蠶四)
○三谷 勝(蠶七) ○深谷 正一(蠶十)
○大高 雄三(蠶九) ○井澤 喜三(蠶六)
○佐藤 壽雄(蠶七) ○三輪 貞徳(蠶七)
○鹽田 健介(蠶七) ○宮崎 秋雄(蠶七)
○竹内 孝三(蠶七) ○梅澤万治郎(蠶七)
○伊藤 清(蠶二) ○林 周蔵(蠶三)
○齋藤 風一(蠶八) ○若井 眞英(蠶九)
○片山 次夫(蠶七) ○金崎 一夫(蠶一)
○鶴田 定平(蠶一) ○田中 廣貞(蠶七)
○關 只(蠶七) ○梶田 卓郎(蠶九)
○中木 禎(蠶七) ○黒岩京次郎(蠶七)
○一之瀬 茂(蠶七) ○岡 義夫(蠶九)
○永井 俊郎(蠶七) ○勝又 藤夫(蠶九)
○二木 猪一(蠶八) ○高瀬 毅一(蠶七)
○戸倉 八峯(蠶二) ○田村 亮(蠶七)
○坂 求(蠶七) ○太田 三郎(蠶七)
○若林 爲夫(蠶六) ○山口 伊助(蠶七)
○西本 朝平(蠶七) ○遠山 正人(蠶七)
○尾澤 義則(蠶八) ○三瓶常四郎(蠶六)
○福島 喜藏(蠶六) ○西澤 重光(蠶七)
○平石 兵衛(蠶七) ○武井 芳保(蠶七)
○岩瀬 政吾(蠶八) 山本友之助(蠶七)
○手塚 勘助(蠶七) 山本金之助(蠶七)
○岡崎 中和(蠶七) 井上 保雄(蠶七)
○竹村 得三(蠶七) 石濱 正巳(蠶十)
○宮入 保(蠶七) 白井 四良(蠶七)
○町田 史郎(蠶七) 八俣秀次郎(蠶六)
○古川 俊之(蠶八) 西川梅次郎(蠶七)
○北原 基(蠶八) 萩野 俊一(蠶八)
○黒田誠一郎(蠶八) 萩野 俊一(蠶八)
○大塚 政平(蠶二) 神林 浩三(蠶四)
○鍵谷 傳(蠶七) 小山 二郎(蠶六)
○小山 雅夫(蠶十) 宮本 静雄(蠶三)
○本多 懋(蠶七) 恒川 芳保(蠶七)
○唐木田藤五郎(蠶六) 西山 謙治(蠶七)
○小宮山太助(蠶八) 中曾根静三(蠶七)
○橋本 和夫(蠶六) 關 順一(蠶七)
○石井 謙三(蠶七) 宮田 清義(蠶四)
○米田 俊雄(蠶十) 笠原 重雄(蠶七)
○中山 鑑一(蠶三) 牛草 榮喜(蠶七)
○野澤 泰治(蠶一) 有松利一郎(蠶七)
○野間 直之(蠶七) 湯澤 稔(蠶七)
○的場 小六(蠶六) 飯瀨 榮(蠶六)
○齋藤 舍(蠶七) 森 淳太郎(蠶一)
○土岐 宣治(蠶一) 前澤 康雄(蠶七)

- 与乙女徳藏(蠶七) 河井 正(蠶七)
○丸山 十吉(蠶七) 岡宮 成吉(蠶七)
○小林 直助(蠶十) ○竹内 節陸(蠶三)
○緒方善之助(蠶八) ○齋藤 格次(蠶三)
○林 四郎(蠶一) ○鈴木 誠一(蠶一)
○小林 重男(蠶七) ○門平潤一郎(蠶九)
○小島 杉門(蠶八) 寺島 雅彦(蠶七)
○上野 榮仁(蠶三) 丸山 忠良(蠶一)
○神保 喜久(蠶三) 遠藤 文平(蠶一)
○佐村 和夫(蠶七) 川村 五郎(蠶七)
○南林 孝三(蠶七) 前田 益藏(蠶十)
○山岸 寅雄(蠶十) 内田訓之亮(蠶七)
○村田 勺(蠶六) 南澤 清(蠶九)
○原田 種徳(蠶九) 本山 正美(蠶九)
○鳥倉 智造(蠶九) 金野 殿保(蠶七)
○青木 幸雄(蠶七) ○佐藤 義助(蠶七)
○村田 一由(蠶六) ○石井 公男(蠶七)
○山下 忠雄(蠶七) ○丸山 勳(蠶七)
○宮城 長雄(蠶七) ○小林 進(蠶七)
○西山 省(蠶九) ○三宅農榮(蠶七)
○岡田 實(蠶七) ○池田 爲雄(蠶七)
○山浦 卓郎(蠶九) ○寺本 秀吉(蠶九)
○萩原 孫三(蠶六) ○黒木 藤雄(蠶七)
○永田 平(蠶八) ○松井 清三(蠶一)
○小澤 正一(蠶九) 宮澤 茂雄(蠶二)
○佐藤 種雄(蠶六) 鈴木 英夫(蠶七)
○岩根 恒徳(蠶七) 高坂 殿保(蠶八)
○宮崎 連(蠶七) 丸山俊一郎(蠶一)
○宮崎 秀門(蠶七) 望月 榮作(蠶七)
○土岡 光郎(蠶七) 宮下文四郎(蠶七)
○石原滿州夫(蠶七) 佐久間幸一(蠶十)
○市原 安臣(蠶七) 藤井 周蔵(蠶六)
○楠田元之助(蠶七) 高須 正高(蠶七)
○北澤 琢郎(蠶七) 原 清志(蠶九)
○三浦 明義(蠶七) 菅野 三郎(蠶十)
○小井土英二(蠶七) 松崎 武雄(蠶十)
○橋本 廣(蠶六) 緒方 良純(蠶十)
○荒井 猛(蠶七) 梅澤治三郎(蠶七)
○加藤喜一郎(蠶三) 木曾 信雄(蠶七)
○吉田 義夫(蠶七) ○北澤 孝一(蠶七)
○百瀬 哲一(蠶六) ○赤津 辰男(蠶七)
○高橋 康輔(蠶七) ○又木 善義(蠶七)
○湯澤 重敬(蠶九) ○甲本 正道(蠶七)
○桐本健喜男(蠶九) ○河野 芳春(蠶六)
○角田 勝郎(蠶七) ○岩田 正(蠶七)
○宮原 秀人(蠶七) ○岩間 直人(蠶一)
○吉川 知則(蠶九) ○福島綱治郎(蠶七)
○手塚 雄一(蠶六) ○星野 豊(蠶七)

千曲會規則第九條第一項第三號による未納會費納入者

- 金五圓也
○橋本 景吉(蠶四) 丸山 武夫(蠶五)
○清水達太郎(蠶一) 岩本 市郎(蠶一)
○網村 貢(蠶一) 片岡清治郎(蠶五)
○松野 壽一(蠶三) 松尾 順策(蠶四)
○田口 博輔(蠶四) 田中 康雄(蠶四)
○長瀬 深美(蠶五) 坂田 榮雄(蠶二)
○野崎 清(蠶四) 吉村 眞作(蠶四)
○大石 卓壽(蠶二) 堀本 省一(蠶二)
○上原 清夫(蠶一)
○金四圓也
○栗原 章(蠶五) 鈴木鐵次郎(蠶四)
○飯田由次郎(蠶五) 齋藤繁太郎(蠶五)
○飯島 直(蠶三)
○終身會費完納者
○關田 九平(蠶五) 荒牧伊勢美(蠶五)
○塚田 鎮磨(蠶二) 有賀康人(蠶十四)
○未納會費納入者
○金貳拾七圓也 有賀 康人(蠶十四)
○金四圓也 須江辨三郎(蠶二十)
○入會金完納者
○白土孫七郎(蠶廿二)

編輯室より

◆本號の寄稿は支會便りと申意文があつた丈で一般記事は一編もなかつた。体裁はかまはない、用事さへ足りればよいとは云ふものゝまゝか第一面から上田便り母校ニユースと云ふ譯にも行かない。阿形先生に御多忙中を無理にお願ひして少々体面を維持する事が出来た。先生の御厚意に對しては感謝の外はない。ともあれ今月は稍々原稿不足と云ふ譯だ。切に諸兄の御寄稿を望む。今迄腹がすかないで困ると云ふのが空腹の悲鳴に變つたのである。

◆原稿の不足に反して寫眞、寄せ書、圖面の多かつたのも開闢以來だ。体裁上から經費上から一部分来月號に割愛しようと思つたがなるべく早く御目に掛ける事も本紙の使命の一つと思ひ全部掲載した。それで本月號は一寸グラフの感がある。毎日々々一定の頁數同數の繪をのせる方法がよいか、豪華版にしたりある時はオシリ！何頁にするかと云ふ様な方法がよい

かば考へ物だ。然し編者子は味氣少き人の世に時々調子の外れるのも樂しみの一つであると思つてゐる。

御來田のお土産は
みずり餅 上のフルーツ
香ゼリ! チョコレット
香羊羹 黒羊羹
信濃そば 果物類 備註
上田市松尾町
上飯島商店
電話二六〇二五四

御宴會に御會食に
レストラン
香青軒
明瞭な洋室、落付いた
和室(數室)
上田市袋町 電話13番

千曲會指定旅館
上村ホテル
上田市海野町
電話三二七番